

総領事館便り 11月号

★金杉憲治駐インドネシア日本国大使の東ジャワ州公式訪問

10月25日（月）から27日（水）まで、金杉憲治駐インドネシア日本国大使が今年1月の着任以降初めての公式訪問として東ジャワ州を訪問しました。滞在中、コフィファ・インダル・パラワンサ東ジャワ州知事、ニコ東ジャワ州警察本部長、ラフマツト海軍第2司令部幕僚長を表敬した他、ドディ・アルフェロ JETAA（元 JETI参加者の会）会長との懇談、エミル・ダルダック東ジャワ州副知事との昼食会、東ジャワ日本人会／日系企業関係者との夕食会や元日本留学生との夕食会に出席し、ジョンバン県のテブイレン・イスラム寄宿塾、ジャワ・ポス、スラバヤ日本人学校、スラバヤ日本人墓苑、工業団地である JIPE、タンジュン・ペラック港等を訪問しました。

金杉大使は、コフィファ州知事表敬において、日本と東ジャワ州の友好協力関係を一層強化していくことで一致しました。また、ニコ州警察本部長表敬では、多くの邦人も暮らす大都市スラバヤの治安責任を担う本部長に敬意を表するとともに、在留邦人や日系企業の方が安全に暮らし、そして企業活動を実施できるよう、引き続きのご支援をお願いしました。



（写真）

左：コフィファ東ジャワ州知事表敬



右上：テブイレン・イスラム寄宿塾訪問



右下：タンジュン・ペラック港訪問

エミル副知事との昼食会では、同副知事が元日本留学生であることもあり、フランクな雰囲気の中で意見交換が行われました。特に、金杉大使から東ジャワに既に進出している日系企業が税務問題を中心に問題を抱えていることを率直に説明し、こうした既存の日系企業の声を聞き改善していくことが結局は日系企業の今後の新規投資につながることを指摘。同副知事からは在スラバヤ総領事館を交えて日系企業の声に耳を傾けていきたいとの反応がありました。



(写真) エミル東ジャワ州副知事との昼食会

今般の東ジャワ州訪問にあたり、金杉大使は日本人墓苑も参拝しました。スラバヤ日本人墓苑には、先の大戦前、蘭印時代の在留邦人120名の御遺骨と名簿が納められ、また、インドネシア独立戦争時代に日本人としてお亡くなりになった454名を慰霊する「招魂の碑」が1984年に建立され、残留日本兵故石井正治氏の御家族及び東ジャワ日本人会共同で管理していただいています。

スラバヤ日本人学校では、金杉大使より「この年齢で海外で過ごすことは大変貴重な経験です。学校は楽しいところですので、コロナに気をつけて楽しんで学んでほしい。」とお話しました。スラバヤ日本人学校は1925年に開校した世界で3番目に古い海外の日本人学校です。



(写真)

左：日本人墓苑訪問（左：故石井正治氏御家族（石井ヤント氏と石井ジョハン氏）と一緒に）

右：スラバヤ日本人学校訪問

さらに、金杉大使は、訪問中の10月26日（火）、在スラバヤ総領事館において、令和2年度春の外国人叙勲受章者のアハマド・ヤジディ氏に対し、勲記と勲章を授与しました。本伝達式は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、ジャカルタでの実施が延期されていたものです。金杉大使は、アハマド・ヤジディ氏が教育文化省中等教育総局長時代に行った日本語パートナーズ受け入れ制度創設に向けた取組や、11月10日工科大学（ITS）副学長時代に関わった日本の理系大学の特徴である研究室ベース教育（Laboratory Based Education）の普及に関する貢献に深い謝意を述べました。アハマド・ヤジディ氏からは、日本での留学経験で得た教訓や、その後の日本との関わりについてのエピソードが語られました。また、来賓として挨拶を行ったモハマド・ヌー元教育文化大臣からも、日本との教育分野での協力に関する思い出が語られ、伝達式に参加した関係者とともに、叙勲受章をお祝いしました。



（写真）

令和2年度春の叙勲伝達式（右：アハマド・ヤジディ氏御家族と一緒に）

¹ JET プログラムとは、語学指導等を行う外国青年招致事業（The Japan Exchange and Teaching Programme）の略で、外国青年を招致して地方自治体等で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業です。